科目ナンバリング	U-LAS05 20054 LJ31

授業科目名<英訳>	地域研究概論 Introduction to Area Studies	担当者所属職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 金子 守恵 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 平野（野元） 美佐 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 原田 英典 アジア・アフリカ地域研究研究科 助教 齋藤 美保

群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	地域・文化(各論)	使用言語	日本語

旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）

開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	金2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

この講義では、京都大学がこれまでとりくんできた地域研究のアプローチや基本的な考え方を理解するために、「もの」のサーキュレーション（循環）という着眼点に留意して、アフリカに暮らす人びとが培ってきた在来の知識をとりあげます。ここでとりあげる「もの」は、商品や日用品、廃棄物など有形の「もの」だけではなく、組織や制度、出来事に対する人びとの記憶のような無形の「もの」も含めています。そのような「もの」を循環させる生態学的な環境や社会文化的な状況に、人/ヒトがどのように関わりあってきたかに注目します。

京都大学では、1960年代からアフリカにおける調査研究に着手してきました。そのアプローチや考え方は、諸外国で展開してきた地域研究とは異なり、長期にわたる徹底的なフィールドワークにもとづいて進展してきました。受講者は、この授業を通して、京都大学における地域研究のアプローチや考え方の特性を深く理解するとともに、そのようなアプローチを通じてあきらかになる、アフリカが直面する現代的な課題やそれを乗り越えていく可能性について考察することを目指します。

[到達目標]

京都大学におけるアフリカを対象にした地域研究の歴史やその思考の特徴、アプローチの仕方について理解したうえで、「もの」のサーキュレーションに留意しながら、アフリカにおける人と環境との関わりに注目して、アフリカが直面する現代的な課題やそれを乗り越えていく可能性について考察する力を身につけます。

[授業計画と内容]

地域研究という研究領域の特徴でもありますが、講義中にとりあげるテーマは、その内容に限らずその学問分野も多岐にわたっているため、毎回主担当教員が講義のファシリテーターをつとめます。基本的に以下の予定で講義をすすめますが、講義の進み具合等に対応して順番を変えることがあります。主担当教員に加えて、重田眞義先生をゲストスピーカーにお招きして、「アフリカにおける栽培植物のサーキュレーション」についてお話しをしていただきます（第３回講義予定）。

第1回 イントロダクション（金子）
第2回 京都大学アフリカ研究の歴史（金子）
第3回 アフリカにおける栽培植物のサーキュレーション（金子）
第4回 アフリカにおけるものつくりのサーキュレーション１（金子）
第5回 アフリカにおけるものつくりのサーキュレーション2（金子）
第6回 アフリカにおけるものつくりのサーキュレーション3（金子）
第7回 水・衛生とサーキュレーション：アジア・アフリカの事例から1（原田）
第8回 水・衛生とサーキュレーション：アジア・アフリカの事例から2（原田）
第9回 水・衛生とサーキュレーション：アジア・アフリカの事例から3（原田）
第10回 人と野生動物を介したサーキュレーション１（齋藤）
第11回 人と野生動物を介したサーキュレーション2（齋藤）

地域研究概論(2)へ続く↓↓↓

地域研究概論(2)

第12回 貨幣のサーキュレーション：カメルーンと沖縄の事例から１（平野）
第13回 貨幣のサーキュレーション：カメルーンと沖縄の事例から2（平野）
第14回 貨幣のサーキュレーション：カメルーンと沖縄の事例から3（平野）
第15回 フィードバック（金子）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポートと授業への積極的な参加（講義最後に提出するコミュニケーションシートの提出など）を評価します。詳細を授業内で説明します。

[教科書]

松田素二 『アフリカを学ぶ人のために』（世界思想社 2023年）ISBN:9784790717829

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連ＵＲＬ）

https://www.africa.asafas.kyoto-u.ac.jp/(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ地域研究専攻ウェブサイト)

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に教科書や参考文献を読んでおくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

・使用予定の教室定員により、120人を受け入れ予定人数として、事前に抽選を行います。
・LMSにて講義資料を共有する予定です。第１回目にLMSにて講義資料をダウンロードする手順やメールにて資料を受け取る手順について簡単な説明をします。

[主要授業科目（学部・学科名）]